

市有財産の状況

区 分		金額・面積
土 地		638.7万平方メートル
建 物		29.1万平方メートル
基金など	現 金	33億5,283万円
	土 地	11.4万平方メートル
出資金・ 債権など	出資金等（現金）	1億3,496万円
	出資金等（土地）	6.4万平方メートル
	債 権	6億 904万円

市は、市民サービスの提供に活用するため、土地や建物を所有しているほか、特定の目的に使用したり、もしものときの貯金として、基金を保有するなどしています。

一時借入金の状況

区 分		借入金残高
一般会計		24億円
特別 会計	国民健康保険特別会計	0円
	公共下水道事業特別会計	0円
	介護保険特別会計	0円
	カルルス温泉スキー場事業特別会計	0円
合 計		24億円

市は、一時的な資金不足により、市民への給付や納入業者への支払いに支障が生じるとき、金融機関から資金を借ります。

この市の一時的な借入金を、一時借入金と呼びます。

市の財政動向と今後の運営

市の収入のうち、市税は、市民の皆さんから納められる安定的な収入で、財政運営を行う上では、収入に占める市税の割合が高いことが望ましいとされています。

しかし、登別市は、市税の割合が他の自治体に比べて低く、逆に、国から交付される地方交付税の占める割合が高くなっています。

また、支出のうち、公債費や給与費は必ず支払わなければならないお金です。

その他の経費についても、法律などで支払いが義務付けられたものが多くを占めているため、市は、新たな事業になかなか取り組めない状況にあります。

市は、特定の事業に使ったり、もしものときの備えとするため、基金（貯金）を積み立てています。

このうち、もしものときに自由に使える基金（財源調整用基金）は、年々減少しており、平成23年度には、過去10年間で最大だった平成18年度に比べて約5億円減少しました。

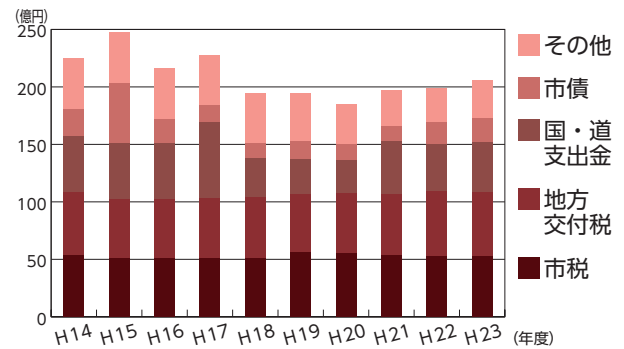
市の収入の多くを占める地方交付税は、国の財政状況などによる増減が大きく、過去にも、『三位一体の改革』のときには、交付額が大きく減少しました。

そのとき、市は今以上厳しい財政運営を強いられましたので、今後も、そうした事態に備え、これらの基金（貯金）はできる限り多く保有しなければなりません。

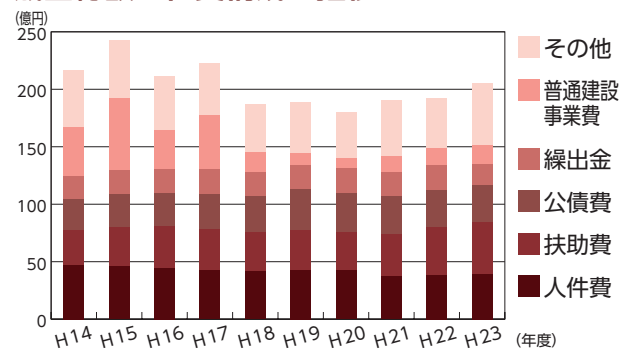
健全な財政運営を行うためには、新たな事業に柔軟に取り組めること、もしものときに自由に使える基金（貯金）を常に一定程度確保しておくことが重要です。

このため、市は、将来の財政見通しなどを踏まえつつ、歳入確保の取り組みと併せて、積極的な歳出の見直しと公債費（借金返済額）の計画的な管理に努めていきます。

歳入総額と歳入構成の推移



歳出総額と性質構成の推移



財源調整用基金残高の推移

